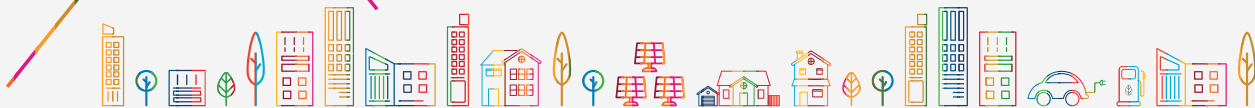


富士市SDGsの課題と取り組み



15 陸の豊かさも
守ろう



目標 15

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、森林の持続的な管理、
ならびに生物多様性損失の阻止を図る

富士市の課題

生態系の恵みを守るためには、森林を守り、大きな面積の伐採をしないようにしなければなりません。富士市では、平成3年に、富士愛鷹山麓の森林伐採の開発をなるべく行わないように計画しましたが、令和元年までに最大285haの森林が失われていると計算されています。近年では、地球温暖化が進み、豪雨災害が全国でも毎年のように聞きますが、このまま森林が失われていくと、富士市でも市街地の洪水被害が拡大したり、さらには、森林が守っていた、山麓の豊かな生態系も失われてしまうことになるかもしれません。

森林の面積だけではなく、質も重要です。手入れや管理不足の人工林はもとより、単純な種の人工林だけで構成されたり、100年未満の若い林だけであったりする地域は、豊かな陸上生態系とは言えません。このほか、草地生態系いわゆる草原が激減していることや、外来生物の侵入も陸上生態系を守るということでは、重要な課題のひとつとなります。



須津川溪谷



シカ

富士市の取り組み

富士市は、森林が減っていることを背景として、富士・愛鷹山麓地域において、森林伐採をして人工物を作るような開発行為に対して、環境影響評価(森林を伐採する前に、森林を伐採した場合にどんな影響が出てくるのか、事前に調査・予測・評価して、その悪い影響が出ないよう措置の検討を行うこと)を義務付けたり、また、地域全体を見て森林機能が失われないよう他の土地に同等の規模の森林を創造することを求めたりするなど、全国的に見ても、先進的な森林を守る規制を条例化しました。陸の生態系の豊かさを守ることと、森林を切り開いて新しい産業発展の両立に向け、一步踏み出したと思います。

この背景として、市民・事業者・行政が協働して植林する富士山麓ブナ林創造事業を長年開催してきたことによる、富士山麓の森林を将来に渡り保全するという意識の高まりがあると思います。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中

静岡大学大学院農学領域 教授

水永 博己

富士市環境審議会専門委員として、富士愛鷹山麓地域の森林を保全するための技術指針策定やアセスメントの審査に携わっています。

研究分野 森林生態、林冠、生態系修復

所属学会: 森林立地学会・生態学会・日本森林学会・熱帯生態学会



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS